

過去を振り返り、今の暮らしを見つめ直す ～クメールお盆一時帰省～



何度も転んで、乗れるようになりました

皆様、こんにちは。風もひんやりと冷たく、少しずつ冬の訪れを感じる頃でしょうか。

カンボジアの子どもたちは長期休みを終え、10月中旬から新学期が始まりました。園の子どもたちは小学4年生から、少し離れた小学校へ通う為、自転車通学になります。新しく小学4年生になった子は毎日自転車に乗る練習に励んでいます。

さて、今回のドリーム通信ではクメールお盆一時帰省と孤児院生徒会選挙の様子、新しく入園した子どもの紹介を致します。

クメールお盆一時帰省

今年のクメールお盆は9月30日、10月1日、2日の3日間でした。お盆になるとカンボジアの人々はお供え物を持ってお寺にお参りに行きます。園の子どもたちもお盆の日程に合わせて9月25日から1週間、育ての親の元へ一時帰省しました。

今は園で衣食住が整った暮らしを送っている子どもたちですが、園に来る前は苦しい生活を送り、つらい経験をしてきました。帰省をすることで昔の苦しかった生活を思い出し、いつもたくさんの人たちに支えられてきたということ、感謝の気持ちを改めて再確認してほしいという思いを込め一時帰省を行っています。

毎回帰省から戻ってくると園に必要なのい物を持って帰ってくる等、問題が起きやすい為、事前に子どもたちと帰省中の注意事項や過ごし方について話しをします。

帰省当日、育ての親との久しぶりの再会に子どもたちから思わず笑みがこぼれます。職員から園での生活態度、学校の成績、指導してほしいことを伝えます。また特に高校3年生の子どもたちには、家族と進路について話をするように伝えました。

1週間が経ち、家へ迎えに行くと子どもたちは皆とても良い表情をして待っていました。そして、子どもたちから調理、掃除、洗濯などのお手伝いを毎日頑張ったと報告がありました。

また日記には「家族と会えて嬉しかった」「お寺に遊びに行った」「調理の手伝いを頑張った」等、帰省中充実していた様



帰省前は皆で一緒に御祈りをします



半年振りの再会、しっかりと挨拶します



職員からの良い報告に安心する育ての親、親戚の人たち

子がわかる内容がたくさん書かれていました。

今回の帰省を通し、今自分がやらなければいけないことをしっかりと見つめ直すことが出来たのではないかと思います。

新学期、新しい学年のスタートです。日々感謝の気持ちを忘れずに、次帰省する時には今よりもっと成長した姿を見せる事が出来るように、また里親様にも嬉しい報告がたくさん出来るように頑張りたいと思います。

生徒会選挙

園では毎年新学期が始まる前に生徒会選挙を行っています。生徒会とは園をよりよくするために、子どもたち自身が園の問題を発見し、解決していこうというものです。

生徒会メンバーを決めるのももちろん子どもたち自身、全員の投票で決めます。園をこれから引っ張って行く子どもということで、皆真剣に考え記入していきます。

投票の結果、生徒会会長は一番投票数の多かったフン・パエット（高1・男）、副会長はタン・セラー（高1・男）とアン・サオリ（高1・女）に決まりました。

生徒会会長のフン・パエットは「選ばれて嬉しいです、ありがとうございます。良い園にしていく為に、皆と協力しながら会長として責任を持って頑張っていきたいと思います」と力強く話してくれました。

また前年度の生徒会会長を務めたトム・ティアン（高3・男）からは「人をまとめるということは難しかったけど、とても良い勉強になりました。新しい生徒会メンバーも皆で協力して頑張りたいです」と新しいメンバーにエールを贈りました。

子どもたちが主体となって行うこの生徒会、言われたことをするのではなく、自分たちで考え、協力し合い成長していく姿を近くで見守っていきたいと思います。

新入園児

9月23日に新しく2人の子どもが入園しました。ポーサット州出身のクーン・サー（8歳・女）、クーン・コン（6歳・男）の2人姉弟です。両親を病気と事故で亡くしました。

2人は今までポーサット州にある短期入園型の孤児院に住んでいましたが親戚等の取り手がなく、園で引き取るようになりました。2人とも学校には通っていませんでしたので、新学期から小学1年生として学校に通います。入園初日は緊張している様子でしたが、今では休み時間に他の子どもたちと元気いっぱい遊んでいます。2人が早く園の生活になれ、ここが自分たちの居場所だと思い安心して生活出来るように、サポートしていきたいと思います。家族が増えたことで職員同士よりいっそう協力していきたいです。



全員新高校1年生の生徒会メンバー



新学年リーダー 学年を引っ張っていきます



左:クーン・コン(6歳)右:クーン・サー(8歳)